

# 春告草

第163号 令和元年12月5日 進路指導部発行

## 「出願プラン」を考える

6年生にとっては中学受験以来の大学受験である。センター試験まで44日となった今、不安を感じていない人は稀だろう。少しの時間でも、受験勉強に充てたい心境だと思うが、そろそろ受験する大学を決めなければいけない時期でもある。勿論、第一志望は決まっているだろうから、他にどこを受験するか「併願校」を考えなければいけない。5年生、4年生も自分の受験に置き換えて考えておこう。

## 大学入試「併願」の実態を知ろう

### 1 併願する意味とは

国公立大を第一志望にしている人は、まずセンター試験を受験し（2020/1/18～19）、その後個別試験を受験する（前期日程は2020/2/25以降）。国公立大一本にかける人も中にはいるだろうが、早い人では1月末から始まる私立大入試を受験する。国公立大受験前に私立大に合格出来れば、「浪人したらどうしよう」という不安を払拭できるし、何よりも第一志望校受験前のリハーサルとして貴重な経験になる。勿論デメリットもあるが、第一志望校の試験で実力を出し切るためにも、併願しておくべきだろう。

併願プランを立てるにあたっては、「併願の目的を明確にすること」が大切だ。自分が希望する結果や状況を考え、併願で「何を、どうしたい」というテーマや優先順位を決めておこう。例えば「浪人は絶対に回避する」のが併願の目的であれば、プランニングの軸は「合格難易度や入試との学力的相性を慎重に吟味しつつ、納得して入学できる大学を探る」ことになる。勿論「第一志望校あつての併願」なので、第一志望校の合格を最優先に考えてプランニングすることが、最善の結果を引き出すための大前提である。優先順位が曖昧な併願は成功しない。第一志望校が明確でない人は、ここを確定させてから併願を考えよう。

### 2 入試科目と難易度

併願先を検討するにあたって大切なことは、入試科目と難易度だ。入試科目一覧表や難易ランキング表を眺めただけでは、併願プランを適切に立てることはできない。まずは、自分の学力を正しく把握することが先決である。センター試験まで44日と書いたが1カ月以上ある。私立大入試までは1カ月半から2カ月、国公立大入試までは約2カ月半の時間がある。これからの伸びしろを考慮しながらのプランニングは難しいが、これまで受けた模試の結果など客観的なデータも参考にして、様々な観点から自分の学力を分析しよう。全体および各科目・分野の現時点での学力到達度、現在までの学習状況と学力の推移、各科目・分野の得意・不得意や自分との相性などを分析してみよう。これからの学力の伸びを過度に期待してはいけないが、学力分析した結果に悲観することもない。弱気になって、安全策に走ってもいけない。昔は「一浪」と書いて「ひとなみ」と読んだが、今は現役生主導の大学入試である。周りも自分と同じように、初めての大学入試なのである。「夢は大きく、希望は高く、受験に向かうハートは強く」である。歯を食いしばって、頑張ろう！

#### 併願のメリット&デメリット

- 一発勝負の不安が軽減され、落ち着いて試験に臨める
- 実戦経験&試験慣れで、実力を発揮しやすくなる
- 高いハードルの大学にも、臆せず挑戦できる
- ×受験先が増えると試験対策の手間も増える
- ×併願校でも落ちると凹む。受かると気が緩む
- ×受験が続くと疲労が蓄積！かかるお金も増える

#### 併願の目的とプランニングの方向性

- 現役合格は絶対にゆずれない
  - 難易度や学力的相性を慎重に吟味して併願校を選ぶ
- 第一志望校の万一の滑り止め
  - 第一志望校受験の障害にならない併願校を選ぶ
- 本命受験前の予行演習
  - 志望校と出題傾向や難易レベルが近い併願校を選ぶ
- 自信をつけて本母校に臨みたい
  - 難易度の低い併願校から順に受け、手応えを得る
- とにかくこの大学に入りたい
  - 学内併願をして、同一大学の受験機会を増やす
- お金をかけずに併願したい
  - 併願割引制度などを利用して出費を減らす  
入学金の重複払いを避ける

## 入試科目

- 第一志望に合わせて受験する科目を共通化  
「受験する科目を共通化する」ことが原則である。
- 配点とその比率に注目！得点戦略も考える  
得意科目の配点や比率にも注意しよう。得意科目の配点が高く、苦手科目の配点が低ければ、受験をより優位に戦える。国公立大志望者は、センター試験と個別試験の配点比率にも注意しよう。
- 選択科目とその条件、出題範囲を慎重に確認  
数学、理科、地歴・公民などは、まず自分の受験したい科目が選択できるのかを確認しよう。センター試験の理科は出願時に登録した選択パターンA～Dと各大学の科目指定の合致に注意する。国語は古文・漢文を含むかなども見逃さないことだ。

## 難易度

- 自分の偏差値±3～5の範囲が合格の目安  
合格圏の目安は、偏差値±3～5程度。受験校は難易度がこの範囲内の大学から選ぶのが基本だが、現役生は受験期にかけて実力が急上昇するものだ。高望みは不可ではないが、極端な大逆転を期待すべきではない。
- 実際のレベルや相性を過去問で確認する  
ランキング表のデータは併願校の検討には不可欠だが、あくまでも基準だ。実際の難易レベルは入試の過去問で具体的に把握しよう。実際に解いてみて、出題内容や各設問の手ごたえを感じながら、合格レベルとの距離感を確かめることが大切である。
- 入試条件の変更など難易の変動要因に注意！  
入試の難易度は様々な条件で変動する。最新情報などを基に、各担任や進路部担当との面談も有効である。

### 3 入試方式と受験方法

私立大のセンター試験利用入試(※)は併願プランを立てる際、大いに検討してもらいたい入試だ。センター試験の得点結果を合否判定に用いるので、センター試験で高得点が取れば、あっちの大学もこっちの大学も合格することができる。受験料も一般入試に比べれば安く、何よりも**大学ごとの受験対策が不要**である。もちろんセンター試験でこけると、滑り止めのつもりで出願した大学の合格も厳しくなる状況も生まれる。MARCHレベルでも合格には85%以上の得点が必要で、「そこまでは無理」と出願を躊躇する人もいるが、東大の入試で8割取れと言っているのではない。全国平均が6割程度(※)の試験で8割5分である。やってやれないレベルではないはずだ。そこまでの力をしっかりつけて、大いに利用しよう。出願はセンター受験前が一般的だが、センター後に出願できる大学もある。併願での利用を検討したい主な入試方式と受験方法について、その特徴やメリットを解説したので、参考にしてもらいたい。

※センター試験は次回の実施で廃止となり、21年度入試からは大学入学共通テストがはじまる。共通テストは平均点が50%となるよう設計される。

#### センター試験利用入試

受験&対策の時間を削減できる

私立大併願に便利な方式

3教科型が主流だが、2教科型や国公立大に近い4～6教科型もある。センター試験の得点とその大学独自の得点で合否を判定するセンター併用型もある。

※この他にも、2～3科目を受験して、最高得点の1科目で合否判定したり、高得点科目の配点比率を高くする「得意科目重視型入試」や、入試科目が1～2科目と少ない「少数科目型入試」を実施する大学もある。関西圏の大学を受験する場合でも東京で受験できる学外試験会場を利用すると、試験日程や移動費用、宿泊費節約の面でメリットは大きい。一部の私立大が2月下旬から3月に実施する3月入試も視野に入れておくと良いだろう。

#### 全学部日程入試

学部別試験とは別日程

1回の受験で複数学部の合否判定

全学部が同日に共通の問題を使って一斉に行う私立大の入試方式。大学によっては、一度の試験で複数の学部・学科を併願できる場合もある。

#### 学内併願

同じ大学に何度も挑戦

合格率アップを狙う

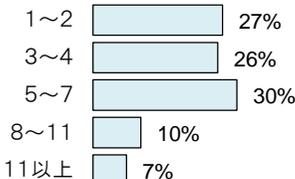
本命校には有効な作戦だ。大学によっては、学部が違っても出題傾向が似ている場合が多く、受験対策を共有化できるメリットがある。立教大では学内併願を勧めている。

### 4 併願する校数とスケジュール

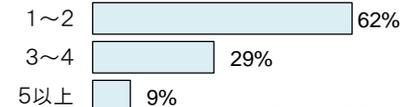
十分承知していると思うが、入学試験は「数撃ちや当たる」訳にはいかない。実力が発揮できるプランを考えて受験計画を立てることが大切だ。私立大学は1月下旬から3月上旬にかけて入試が行われる。1校受験して間隔をあけて次を受験すれば、試験の復習もできるし、体力の回復も図れるのでおススメだが、主要な大学は2月上旬から中旬に集中する。どうしてもここは外せないというケースは連続受験になってしまうことも想定しておこう。私立大学の受験料は一般的なところで、1回の受験で35,000円必要だ。国公立大は17,000円(センター試験は3科目以上の場合で18,000円)であるから、費用負担も考えて出願計画を立てたい。

受験校数の目安は、第一志望校も含めて**5～6校程度**(平均値は4.8校)。「目標校1、実力相応校3、合格確保校2」が基本パターンとなるが、自分の目的に合わせてアレンジすると良いだろう。また、入試日程の立て方も重要である。(裏面へ)

#### ■何校に出願したか



#### ■私立大センター利用入試には何校出願したか



旺文社「蜚雪時代 11月号」より

## ■結果を出すためのスケジュールング

### 第一志望受験前提の計画

併願の目的は第一志望校の試験日に最大の力を発揮すること。本命校の試験に支障が出るようではいけない。

### 「易→難」の順で受験

最初の受験は緊張するもの。理想は難易度が易しめの大学から受験できると良い。本番の試験に慣れつつ、志望校合格への自信を高めていこう。

### 受験日の間隔を適正に

「詰めすぎず、空けすぎず」適度な頻度・間隔の受験日程はよいリズムを作るが、受験が続くようなスケジュールはコンディションを悪化させる。逆に空けすぎると、感覚が鈍ることも。

### 連続受験は3日が限度

一度の受験で、体力、集中力は相当消耗する。受験日の連続は最大で3日に止めたい。それ以上続けると、試験中の集中力が低下したり、体調を乱すことにつながりかねない。

### センター利用など別方式の受験

併願校どうしの試験日が重複したり、試験日が何日も連続するような場合は、センター利用入試や全学部日程入試など別日程の試験も利用しよう。

### 受験期間も学習日を確保

現役生は最後まで伸びる。1回1回の入試をきちんと復習して、次の受験に臨もう。受験シーズン中にも学習日を確保し、もうひと伸び！を追求しよう。

## 5 私立大併願割引は受験料節約にメリット大

入学する大学は1つなので、受験校は少なくしたいところだが、そうも言うてはいられない事情もあるだろう。ならば、少しでも受験にかかる費用を押さえようという点で、志望校に併願割引制度があれば、これを利用して受験料を節約する方法もある。

すべてではないが、私立大では複数受験する場合に併願割引などの特典がある。一例として、中央大学の「特別措置」を紹介するが、他私大も含めて、募集要項をよく調べて入試日程や受験費用などの面で負担の少ない出願プランを立てよう。

### 中央大学の入試特別措置

**特別措置①** 統一入試で1出願目の選考料は35,000円だが、2出願目以降は1つにつき選考料は15,000円となる。

**特別措置②** 一般入試出願者で、同一学部（法学部は同一学科）の英語外部検定試験利用入試や大学入試センター試験利用入試併用方式、大学入試センター試験利用入試単独方式（前期選考）を同時に申し込む場合は、一般入試の選考料だけで受験できる。

特別が適用となる出願パターンは以下の通り。

※一般入試と同一日に実施する同一学部の英語外部検定試験利用入試と

大学入試センター試験利用入試併用方式並びに同一学部の大学入試センター試験利用入試単独方式（前期選考）に適用。同時出願又は追加出願に限り適用。

理工学部の大学入試センター試験利用入試併用方式は、一般入試と異なる日程のため特別措置は適用されない。

**特別措置③** 理工学部センター併用方式で2学科出願する場合（同時出願又は追加出願）は、2学科目の選考料は10,000円となる。

**特別措置④** 法学部の一般入試で複数学科を併願する場合、2学科目以降の選考料は15,000円となる。  
(例)

経済学部Ⅰ 試験日 2/14	一般入試Ⅰ	35,000円
	英語外部検定試験利用入試Ⅰ	49,000円
	センター併用方式Ⅰ（英語選択）	49,000円
	センター併用方式Ⅰ（数学選択）	49,000円
経済学部Ⅱ 試験日 2/15	一般入試Ⅱ	35,000円
	英語外部検定試験利用入試Ⅱ	49,000円
	センター併用方式Ⅱ（英語選択）	49,000円
	センター併用方式Ⅱ（数学選択）	49,000円
経済学部	センター単独方式（4教科型）	45,000円
経済学部	センター単独方式（3教科型）	45,000円

選考料合計金額  
70,000円

※センター試験を国語、地歴・公民、数学、外国語の4教科受験しておけば、7万円で最大10の試験区分への出願が可能  
中央大学は1回のWeb出願ですべての試験区分へ出願ができる  
提出する調査書も1通で済む

# 出願しても受験できない？

## ～国公立大学2段階選抜 首都大は約1千人が足切り～

国公立大学の一般選抜で気をつけなければならないのが2段階選抜という制度（いわゆる“足切り”）です。これはセンター試験の成績を用いて受験者を事前に選抜したうえで（これを第1段階選抜といいます）、大学独自で行う個別試験を実施する制度。選抜が2段階に分かれていることから2段階選抜とよばれています。

2段階選抜の実施の有無は大学によります。また、第1段階選抜の実施方法も大学に委ねられています。多くの大学では「志願者が募集人員の〇倍を上回った場合、第1段階選抜を実施する」としていて、志願者数の状況によって第1段階選抜の有無が決まります。そのため、実際に2段階選抜が実施されるのは、志願者が集まる難関大学や医学科のような人気学科が多くなっています。

なお、一部の大学では志願者数に関係なく「センター試験の点数が〇点以上の者を第1段階選抜の合格者とする」といったように、予め設定した第1段階選抜の合格ラインをクリアした者だけが個別試験を受験できる大学もあります。

右表は、首都圏国公立大の今年度入試における2段階選抜の実施状況です。前期試験の結果は文科省発表のもので、学部・学科別のデータは公表されていません。国公立大全体で3,660人、公立大全体で1,395人が不合格となっていますが、首都大学の2段階選抜不合格者は981名で、公立不合格者の大半を占めています。首都大学は前期日程で7つの募集区分で規定の倍率を超え、後期日程では10の募集区分で規定倍率の14倍を超えました。後期日程の結果は文部科学省からの発表がなく、各大学のホームページなどで発表されている数を掲載しましたが、非公表の大学も多く、空欄になっています。

2段階選抜の実施を予定している大学では、センター試験の成績次第で個別試験を受けることなく不合格となる場合もあるわけです。国公立大学志望者は、まずセンター試験でしっかりと得点できる力をつけることが大事といえるでしょう。

### ■東京大学第1段階選抜合格者成績（900点満点）

科類	志願者数	第1段階選抜合格者数	合格者平均点	合格ライン	
				得点	得点率
文一	1,407	1,204	765.14	628	69.8%
文二	1,183	1,064	794.58	728	80.9%
文三	1,492	1,408	798.20	750	83.3%
理一	2,915	2,771	799.62	698	77.6%
理二	2,081	1,874	786.59	720	80.0%
理三	405	340	801.68	630	70.0%

### ■首都圏国公立大学2段階選抜実施予定大学・学部

大学	日程	学部・学科等	20年入試 予告倍率	19年入試 予告倍率	19年入試 実施状況※	
筑波大(注1)	前	国際総合、生物資源、理工学群	約5倍	約5倍	77	
	前	医	約2.5倍	約2.5倍		
	前	社会	約7倍	約7倍		
	前	人間学群、看護、医療科学	約4倍	約4倍		
	前	体育専門学群	約3倍	約3倍		
	後	生物資源	約8倍	約8倍		
	後	応用理工、工学システム、社会工	約10倍	約10倍		
群馬大	前	医(医)	約3倍	約3倍	60	
千葉大	前	国際教養(特色型)	約4倍	約4倍	38	
	前	法政経	約3.5倍	約3.5倍		
	前	医	約3倍	約3倍		
	後	法政経	約13倍	約13倍		0
	後	医	約7倍	約7倍		96
お茶の水女子大	前	文教育、生活科学、理	約6倍	約6倍	0	
	前	文教育、生活科学、理(数、生物、情報科学)	約10倍	約10倍		
東京大	前	文一、文二、文三	約3倍	約3倍	813	
	前	理一	約2.5倍	約2.5倍		
	前	理二、三	約3.5倍	約3.5倍		
東京医科歯科大	前	医(医)、歯(歯)	約4倍	約4倍	10	
	後	医(医)	約12倍	約12倍		
	後	歯(歯)	約6倍	約6倍		
東京海洋大	前	海洋生命科学	(注2)	(注2)		
	前	海洋資源環境	(注2)	(注2)		
	後	海洋生命科学	(注2)	(注2)		
	後	海洋資源環境	(注2)	(注2)		
東京工業大学	前	理、工、物質理工、情報理工、生命理工、環境・社会理工	(注3)	(注3)		
	後	生命理工	約10倍	約10倍	147	
一橋大	前	法、経済、商、社会	約3倍	約3倍	172	
	後	経済	約6倍	約6倍	368	
横浜国立大	前	経済	約7倍	約7倍	0	
	後	経済	約12倍	約12倍		
	後	経営	約8倍	約8倍		
首都大学東京(東京都立大)	前	人文社会、法、経済経営、理、都市環境、システムデザイン	約6倍	約6倍	981	
	前	健康福祉	約5倍	約5倍		
	後	人文社会、経済経営、理、都市環境、システムデザイン、健康福祉	約14倍	約14倍		
神奈川県立保健福祉大	前	保健福祉	約3倍	約3倍	0	
横浜市立大	前	医(医)	約5倍	約5倍	97	
	後	データサイエンス	約20倍	約20倍	0	

※19年入試実施状況とは、同年度入試における第1段階選抜不合格者数のことである。

(注1)筑波大の場合、学群以外の名称は「学類」を省略。医学類のうち、地域枠は2段階選抜を行わない。/(注2)東京海洋大・海洋生命科学・海洋資源環境は出願要件として英語外部検定の指定基準(例:英検準2級以上)を設ける。/(注3)東京工業大の前期は基準点を設ける(セ試950点満点中600点。英語リスニング免除者と英語以外の外国語選択者は外国語200点を250点に換算)。基準点未満の場合は出願不可。表中、名称から「学院」を略。